平成　26　年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3770104267		
法人名	社会福祉法人すみれ福祉会		
事業所名	グループホーム花もめん		
所在地	香川県高松市太田下町2020番地1		
自己評価作成日		評価結果市町受理日	平成24年9月6日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/37/index.php?action_kouhyou_detail_2014_022_kani=true&JigyosyoCd=3770104267-00&PrefCd=37&VersionCd=022

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人香川県社会福祉協議会
所在地	香川県高松市番町一丁目10番35号
訪問調査日	平成26年7月29日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

特別養護老人ホームに併設しており、1Fの機能訓練室を利用したり、4Fの地域交流センターでは、ボランティアの訪問を楽しまれている。
また、地域の方の協力もあり、さまざまな地域行事へ参加し、交流を図っている。ご家族の面会も多く、防災訓練や施設行事にも一緒に参加していただいている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点】

特別養護老人ホームと併設しており、施設設備など、いろいろなものが共有できる。利用者・家族にとり安心できる事業所である。また、事業所の行事などには、ボランティア・高校生・地域の方が協力・参加し、交流が活発に行われており、地域に密着した事業所である。職員間のコミュニケーションも良く、質向上のための話し合いや事業所内外の会議・勉強会が行われおり、利用者個々に関わり、支えあえるよう支援に努めている。利用者は表情が明るく、穏やかに過ごされている。

Ⅴ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
		○	2. 数日に1回程度
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）	○	1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

グループホーム花もめん（上町）

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	利用者の方が笑顔で安心して暮らしていけるよう職員全員で話し合い、それに向けて日々のケアを実践している。	法人理念は朝礼で話しており、事業所独自の理念もある。機会あるごとに、スタッフ全員で話し合っている。スタッフは一人ひとり、理念の笑顔の意味を把握して共有し、実践している。	地域密着型サービスとしての理念は何を目指しているのか初心に戻り、職員全員で目標を持って具体化するとともに、家族や地域にも浸透できるよう、理念を実践につなげる方法や広く関係者で共有する方法を検討することを期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣保育園児や高校生の訪問や地域交流センターでの行事に参加の際、交流している。また、地域行事は運営推進会議の際に案内してくださり、その都度参加している。	運営推進会議で地域の行事を知らせてもらったり、誘いがある。太田地区の防火訓練や神社祭り、運動会などに参加している。また、事業所に高校の吹奏楽部の生演奏や幼稚園児の訪問、ボランティアの踊りなどがあり、楽しみとなっている。事業所内でも、オリーブ祭り・茶会・花火大会などを開催し、家族や地域の方も参加して楽しい交流になっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方を対象に「高齢者支援推進事業」を開催し、その中で認知症についての話をしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では報告や情報交換を行っている。また、自分たちの目標や議題をあげ、意見をもらいサービス向上に取り組んでいる。	2か月に1回午前中に開催し、地域の方も参加して、取り組み報告や意見交換、相談、認知症についての質問など、活発に行われている。写真を使って報告を工夫するなど、分かりやすく例を出している。いただいた意見は話し合い、改善してサービス向上につなげている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	高松市介護保険課、地域包括支援センター担当者と情報交換を行っている。また、年1回地域包括支援センターの職員が研修会をしてくれている。	市職員や地域包括支援センターの職員とかかわりを持ち取り組んでいる。運営推進会議や研修会を事業所で行い、利用者・職員との交流を図っている。研修では事例を話すなど、理解しやすい内容となっている。	

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての勉強会や研修会に参加し、理解している。利用者の状態変化について、例えば車椅子を使用する状況になった時にも家族に説明し、納得を得るなど、対応には注意を払っている。	委員会・勉強会を月１回開催している。現在、拘束はしていないが、時々家族に話したり説明している。入り口は鍵をかけず、見守りで対応している。不穏が強い利用者には、さりげない声かけや、気持ちを落ち着かせる工夫をしたり、一緒に歩くなど、安全を確保した支援をしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	内部研修を行い、虐待防止について学び、理解している。また、日常において利用者の少しの変化にも注意するよう努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会や勉強会の中で制度等を学び、理解の促進と活用に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	その都度面談を行い、十分に説明し話す機会を持っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎年１回家族会を開催し、意見をもらいケアに反映させている。また、面会が多いのでその都度、様子などを報告したり要望等も聞いている。	運営推進会議や家族会で意見をもらったり、利用者家族同士の交流を行っている。また、面会時や電話の際に意見をもらっている。いただいた意見は、記録に残して職員で共有し、ケース会や職員会で話し合って運営に結び付けている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月１回主幹会議が開催され、職員の意見や提案を報告したり、改善したりしている。グループホーム内でのミーティングは月2回全員参加で行い、意見を出している。	ケース会・職員会等、月２回の会議で意見を必ず出すようにしている。親睦会や個人的な面談で、言いやすい雰囲気作りやその都度話し合う機会を作っている。また、アンケートを年１回行っている。アンケートでの意見は話し合い、職場環境やケアに反映させている。	

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勉強会、職員会議等を通じて職員の勤務状況の把握に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	認知症介護実践者研修など、関連する各種研修に参加し、職員一人ひとりの能力向上を図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会に参加した際、交流を図ったり、認知症介護リーダー研修においては、他施設で実習し、よい点を学んだ。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ホームでの生活や、他者となじめるよう努めている。また、ゆっくりと話を聴くよう心がけている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面接を行い、家族から悩みや不安を聞くようにしている。また、家族の思いを受け止め、利用後も話し合う時間を設けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた際、実情や要望をもとに必要な支援を見極めている。また、徐々になじんで利用できるよう工夫している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食器洗いや洗濯たたみ、裁縫等を手伝ってもらったり、味噌汁やおやつ作りを一緒にする等、利用者とともに過ごしながら学びあう関係を築いている。		

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や電話等で状況を報告し、相談し合える関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人や近所の方が面会に来られたり、地域の祭り等で話をされている。また、家族の協力により、行きつけの場に行けるよう支援している。	家族と親戚や行きつけの場所などに行ったり、事業所に友人や近所の方などの面会がある。交流が継続的に途切れることがないように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	常に利用者の方々を観察し、職員間で情報交換して、食事の席の変更や役割分担等、孤立しないよう支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても併設施設内を利用している時は面会したり、家族と話をしている。入院した場合も面会に行き、経過を見守っている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入浴の順番の希望や嗜好調査等、利用者の思いや希望の把握に努めている。訴えのできない方には、これまでの生活を家族から聞き、本人の思いが叶えられるようにしている。日々の会話や関わりを大切にしている。	日々の会話の中で聞いたり、嗜好調査などで把握している。また、意向を表しにくい利用者の場合は、行動や表情などでくみ取ったり、家族に聞いたりして把握している。把握した内容は、記録して職員間で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用前のアセスメントや日々の関わりの中で把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員全員で入居者の暮らしの流れや役割、心身状態の把握に努めている。		

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者が事前に本人や家族に要望を聞き、本人がより良く暮らせる視点で計画を立て、管理者、職員全員で話し合いもしている。	利用者や家族に意見や要望を聞いたり、日々の生活の中から把握して反映させている。職員全員で、カンファレンス・意見交換・モニタリングを行い、担当者がまとめている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を午前・午後・夕食後・夜間に分けて記録し、ケアチェックを行っている。また、小さな変化や気づきがあればその都度申し送り帳に記入し、情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	身体状況の変化や家族の要望等にあわせ、併設施設を利用する等、柔軟に対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事の際にはボランティアを受けている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は本人、家族の希望にそっている。通院時は家族との情報交換も行っている。認知症専門医による訪問診療もあり、相談支援が受けられている。	利用者・家族の希望の医療機関に受診している。受診は家族同行であるため、普段の様子や変化を伝えたり、事業所が一緒に行くこともある。また、専門医の訪問診療もあり、医療機関とも密に連携をとっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設施設の看護職が毎日ホームに来てくれ、状態を報告する等、常に状態を把握し適切な指示をもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際には定期的に面会し、病院関係者や家族と話し合っている。退院時は理学療法士からリハビリや移乗等の話し合いをしている。		

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	運営推進会議で重度化や終末について意見も出されている。 現在、ご家族より看取りを希望されている方もいる。今までにも看取りを経験している。	内科医による看取りの学習会を年１回行っている。併設施設の看護師から指導を受けたり、相談するなど、協力してもらっている。利用者・家族と話し合いをしながら、希望で看取りを行っている。医療機関からの協力や連携も良く、安心して関われるよう支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応についての内部研修を行ったり、マニュアルを作成し、他の部署との連携を図れるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練は年2回実施し、消防署の協力を得て、災害発生を想定して避難誘導や消火器の使い方の訓練をしている。また、地域の家族の方に訓練に一緒に参加してもらっている。	運営推進会議で理解の促進と協力を仰いでいる。消防署・利用者・家族等で、夜間想定の防火訓練を行っている。避難誘導訓練や消火器の使い方を定期的に繰り返し行っている。また、備蓄は同施設の栄養士が管理している。	地震等の災害にも目を向け、いざというときあわてず確実な避難誘導ができるよう、運営推進会議で検討したり、職員間でシミュレーションを行うとともに、多くの方に協力依頼をすることが望まれる。また、備品の点検を定期的に行ったり、備蓄もグループホームとして必要なものを見直すなど、災害に備えるためにさらなる取り組みに期待したい。
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者は「人生の先輩」という意識を持ち、プライバシーを傷つけるような言葉がけや態度ではなく、優しいトーンで声かけをしている。	事業所全体で、やさしいトーンでさりげなく耳元でゆっくりと声かけをするように心がけている。利用者の視点で声かけや対応をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者と少しでも多く関わり、馴染みが深くなることで本人が思いや希望を表せるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりに合わせたケアができるように希望を聞くだけではなく、入浴やリハビリ等、利用者自らが希望を言えるよう工夫し、その声に最大限答えている。		

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服を選んだり、好みの髪型にできるよう支援している。QC（小集団）活動で「身だしなみ」をテーマに活動し、継続している。		
40	（15）	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	嗜好調査を実施し、実践している。 おやつ作りは利用者の希望を聞き、一緒に決めて作っている。また、配膳の準備や片付け等、利用者とともに行っている。	併設施設の栄養士による献立をもとに調理されたものが運ばれてくる。配膳や片付け等を利用者と協力して行っている。食事はお弁当や外食などもあり、楽しみにしている。職員と利用者が一緒のテーブルで会話しながら摂取して和やかである。嗜好調査や残食量の確認を栄養士が行い、どうしてもメニューで食べられない物は代わりの物を出している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者全員がほぼ全量摂取されている。献立は栄養士が立てている。また、水分も希望を聞き、水分確保に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後必ず口腔ケアを実施している。必要に応じてスポンジブラシを使用している。 義歯は毎晩洗浄剤にて洗浄し、清潔保持に努めている。		
43	（16）	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	各利用者の排泄記録をつけ、その方の排泄の間隔や、癖を考慮し、個々にトイレ誘導を実施している。	現在オムツの方2名、自立の方2名、他は一部介助が必要な方で、身体機能に応じ介助している。排泄記録をつけ、気持ちよく排泄できるよう、さり気なく個々に誘導するなどの配慮をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	十分な水分補給を実施している。また、栄養士に麦飯の提供をお願いし昨年より実施している。腹部マッサージや適度な運動も心がけている。		

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	希望を聞き、マンツーマンで誘導から出るまでゆっくりと入浴できるようにしている。また、暑い季節や排便の失敗時は清拭やシャワー浴をしている。車椅子利用者は職員2名で介助している。利用者の状態に合わせて浴槽台を使用している。	週2回、一般浴で利用者と職員が一対一で支援している。機械浴は併設の特別養護老人ホームで行っている。嫌がる人は順番や日時を変更したり、同姓介助を希望の方は配慮している。入浴の時間は利用者の本音や思いが見えるチャンスとして、職員は大切にしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活のリズムを大切にしている。一人ひとりの臥床時間を支援している。不眠時は眠くなるまで職員と一緒にすごしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬は口に入れて飲むまできちんと確認している。目的や副作用・用法についてはファイルを作成し、管理している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯たたみや食器洗い、床掃除等、一人ひとりに合った役割分担をしている。地域のパン屋さんの販売や移動売店で好みのものを選んだり、行事参加や散歩等で気分転換を図っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望により中庭へ散歩に行ったり、地域の行事に外出している。ご家族の協力により外出できるよう支援している。	季節ごとの花見や祭りなどへの外出は、年間の中で計画的に実施されており、他の外出行事は前月に予定されている。家族の協力もあり楽しく外出できている。また、事業所内の周辺を散歩したり、弁当を持って戸外で食事をすることもある。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お祭りではお小遣いで何かを買ったり、お参りではお賽銭をあげている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	1F事務所内に郵便ポスト 1Fエレベーター前に公衆電話を設置している。		

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間は民家風の造りにしており、天井も高く窓からは程よく光が入るようになっている。季節の花を飾る等、工夫している。	併設の特別養護老人ホームの3階にあり、エレベーターを降りるとバリアフリーの静かな場所である。共用空間は天井が高く、柱や梁が見えて民家を思わせる。壁に利用者の行事写真や作品が飾られ、家庭にあるような置物などが置かれたりしている。利用者は、日中はホールで会話したり、作品作りをしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールのテーブルやベンチ等で利用者同士が思い思いに過ごしている。仲の良い方の居室に行かれ過ごされることもある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッドとチェストは備え付けでそれぞれの好みで馴染みの物を持ち込んで、その人らしい居室になっている。	備え付けのもの以外は、個々に必要なものや好みのものが持ち込まれている。一人ひとり個性的に配置され、写真を飾ったり、物が置かれたりしている。その人らしく居心地のいい部屋になるよう支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ、浴室、ホールは手すりを設置し、トイレの場所がわかるよう表示している。		

Ⅴ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる （参考項目：23,24,25）	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある （参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている （参考項目：38）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている （参考項目：36,37）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている （参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている （参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている （参考項目：28）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている （参考項目：9,10,19）	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている （参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
		○	2. 数日に1回程度
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている （参考項目：4）	○	1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている （参考項目：11,12）	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

グループホーム花もめん（下町）

自己評価結果

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況
Ⅰ.理念に基づく運営			
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	利用者の方が笑顔で安心して暮らしていけるよう職員全員で話し合い、それに向けて日々のケアを実践している。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣保育園児や高校生の訪問や地域交流センターでの行事に参加の際、交流している。また、地域行事は運営推進会議の際に案内してくださり、その都度参加している。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方を対象に「高齢者支援推進事業」を開催し、その中で認知症についての話をしている。
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では報告や情報交換を行っている。また、自分たちの目標や議題をあげ、意見をもらいサービス向上に取り組んでいる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	高松市介護保険課、地域包括支援センター担当者と情報交換を行っている。また、年1回地域包括支援センターの職員が研修会をしてくれている。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての勉強会や研修会に参加し、理解している。利用者の状態変化について、例えば車椅子を使用する状況になった時にも家族に説明し、納得を得るなど、対応には注意を払っている。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	内部研修を行い、虐待防止について学び、理解している。また、日常において利用者の少しの変化にも注意するよう努めている。

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会や勉強会の中で制度等を学び、理解の促進と活用に努めている。
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	その都度面談を行い、十分に説明し話す機会を持っている。
10	（6）	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎年1回家族会を開催し、意見をもらいケアに反映させている。また、面会が多いのでその都度、様子などを報告したり要望等も聞いている。
11	（7）	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回主幹会議が開催され、職員の意見や提案を報告したり、改善したりしている。グループホーム内でのミーティングは月2回全員参加で行い、意見を出している。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勉強会、職員会議等を通じて職員の勤務状況の把握に努めている。
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	認知症介護実践者研修など、関連する各種研修に参加し、職員一人ひとりの能力向上を図っている。
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会に参加した際、交流を図ったり、認知症介護リーダー研修においては、他施設で実習し、よい点を学んだ。

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ホームでの生活や、他者となじめるよう努めている。また、ゆっくりと話を聴くよう心がけている。
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面接を行い、家族から悩みや不安を聞くようにしている。また、家族の思いを受け止め、利用後も話し合う時間を設けている。
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた際、実情や要望をもとに必要な支援を見極めている。また、徐々になじんで利用できるよう工夫している。
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食器洗いや洗濯たたみ、裁縫等を手伝ってもらったり、味噌汁やおやつ作りを一緒にする等、利用者とともに過ごしながら学びあう関係を築いている。
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や電話等で状況を報告し、相談し合える関係を築いている。
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	これまでの会合に行けるよう、近所の方が迎えに来られ行かれている。友人や近所の方が面会にも来られている。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	常に利用者の方々を観察し、職員間で情報交換して、食事の席の変更や役割分担等、孤立しないよう支援している。

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても併設施設内を利用している時は面会したり、家族と話をしている。入院した場合も面会に行き、経過を見守っている。
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
23	（9）	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入浴の順番の希望や嗜好調査等、利用者の思いや希望の把握に努めている。訴えのできない方には、これまでの生活を家族から聞き、本人の思いが叶えられるようにしている。日々の会話や関わりを大切にしている。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用前のアセスメントや日々の関わりの中で把握に努めている。
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員全員で入居者の暮らしの流れや役割、心身状態の把握に努めている。
26	（10）	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者が事前に本人や家族に要望を聞き、本人がより良く暮らせる視点で計画を立て、管理者、職員全員で話し合いもしている。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を午前・午後・夕食後・夜間に分けて記録し、ケアチェックを行っている。また、小さな変化や気づきがあればその都度申し送り帳に記入し、情報を共有している。
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	身体状況の変化や家族の要望等にあわせ、併設施設を利用する等、柔軟に対応している。

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事の際にはボランティアを受けている。
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は本人、家族の希望にそっている。通院時は家族との情報交換も行っている。認知症専門医による訪問診療もあり、相談支援が受けられている。
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設施設の看護職が毎日ホームに来てくれ、状態を報告する等、常に状態を把握し適切な指示をもらっている。
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際には定期的に面会し、病院関係者や家族と話し合っている。退院時は理学療法士からリハビリや移乗等の話し合いをしている。
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	運営推進会議で重度化や終末について意見も出されている。 現在、ご家族より看取りを希望されている方もいる。今までにも看取りを経験している。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応についての内部研修を行ったり、マニュアルを作成し、他の部署との連携を図れるようにしている。
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	運営推進会議でも議題となり、協力をお願いしている。年2回の防災訓練では、地域の家族の方も一緒に訓練に参加されている。

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者は「人生の先輩」という意識を持ち、プライバシーを傷つけるような言葉がけや態度ではなく、優しいトーンで声かけをしている。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者と少しでも多く関わり、馴染みが深くなることで本人が思いや希望を表せるようにしている。
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりに合わせたケアができるように希望を聞くだけではなく、入浴やリハビリ等、利用者自らが希望を言えるよう工夫し、その声に最大限答えている。
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服を選んだり、好みの髪型にできるよう支援している。QC（小集団）活動で「身だしなみ」をテーマに活動し、継続している。
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	嗜好調査を実施し、実践している。 おやつ作りは利用者の希望を聞き、一緒に決めて作っている。また、配膳の準備や片付け等、利用者とともに行っている。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者全員がほぼ全量摂取されている。献立は栄養士が立てている。また、水分も希望を聞き、水分確保に努めている。
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後必ず口腔ケアを実施している。必要に応じてスポンジブラシを使用している。 義歯は毎晩洗浄剤にて洗浄し、清潔保持に努めている。

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	各利用者の排泄記録をつけ、その方の排泄の間隔や、癖を考慮し、個々にトイレ誘導を実施している。
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	十分な水分補給を実施している。また、栄養士に麦飯の提供をお願いし昨年より実施している。腹部マッサージや適度な運動も心がけている。
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の声かけから、更衣の準備、入浴後の水分補給までマンツーマンで実施している。拒否があった時は無理強いせず、次の日にする等、支援している。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活のリズムを大切にしている。一人ひとりの臥床時間を支援している。不眠時は眠くなるまで職員と一緒にすごしている。
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬は口に入れて飲むまできちんと確認している。目的や副作用・用法についてはファイルを作成し、管理している。
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯たたみや食器洗い、床掃除等、一人ひとりに合った役割分担をしている。地域のパン屋さんの販売や移動売店で好みのものを選んだり、行事参加や散歩等で気分転換を図っている。
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望により中庭へ散歩に行ったり、地域の行事に外出している。ご家族の協力により外出できるよう支援している。

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お祭りではお小遣いで何かを買ったり、お参りではお賽銭をあげている。
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	1F事務所内に郵便ポスト 1Fエレベーター前に公衆電話を設置している。
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間は民家風の造りにしており、天井も高く窓からは程よく光が入るようになっている。季節の花を飾る等、工夫している。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールのテーブルやベンチ等で利用者同士が思い思いに過ごしている。仲の良い方の居室に行かれ過ごされることもある。
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今まで使っていた座椅子や日めくりカレンダーやアルバム等、心地よく過ごせるよう工夫している。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ、浴室、ホールは手すりを設置し、トイレの場所がわかるよう表示している。